

「スカートは嫌」 校則が変わった



①制服のスカートに違和感を感じ、校則変更を求めた女子生徒(中央)。スラックスで登校している=千葉県市川市、県立行徳高提供
②スカートタイプ(左)とスラックスタイプを自由に選べる行徳高校の制服



千葉・行徳高校 性別問わず制服選択自由に



あきらめず訴えてきてよかった。性別に関係なく制服を選べる学校が各地に広がるなか、千葉県の県立高校が、1人の女子生徒(18)の声を受け、校則を変更した。スカートをはく男子生徒が現れ、周辺校でも同様の制度を検討する動きが出ている。

この生徒は、生まれた性に基づくと違和感を持ち、特にスカートが嫌だった。中学では制服を着るのは登下校の時だけで、校内ではジャージで過ごせたので我慢ができた。だが、高校では体育以外で着用が義務づけられ、「毎朝つらくて……。学校に行きたくない」と悩んだ。1年生の12月、校内のセクハラ・体罰についてのアンケートで、思い切って制服への自分の気持ちを訴えた。

生徒の声に学校は動いた。「こんな思いをさせているのかと知り、見て見ぬふりはできないと思った」と池田浩一校長。性的少数者の団体を招いて教員研修をするなど準備を重ね、生徒が2年生の2学期に制服を選択できる校則に変更。同時に、利用者がいないので閉鎖していた障害者用トイレ2つを「誰でもトイレ」とし、性別を問わず、着替えてでも使えるようにした。

生徒はスラックスで登校するようになり、今は3年生。「友人は良かったね」と言ってくれた。スラックスにならって毎日楽しく学校に通えた」と喜ぶ。

男子でスカート、リボンの着用を希望する生徒も現れた。3年生の男子生徒(18)は「迷いはなかった。ほほ心も女子だったので」と話す。周囲にからかわれるようなことはなく、逆に人気が出たと感じた。「自分がスカートををはくことで、LGBTへの理解が深まってほしい」

性的少数者へ配慮広がる

望する性別での制服の着用を検討するところが出ていくという。校則の変更を訴え、今春卒業する女子生徒は「私たちの学校をきっかけに、制服の選択制を導入する学校がもっと増えたらいいな」と話している。

性的少数者の児童・生徒への配慮を目的とした制服の選択制は、各地の学校に広がっている。文部科学省が2015年、「自認する性別の制服の着用を認め」と通知で例示したことがきっかけだ。

埼玉県吉川市に昨春開校した市立吉川中では、男女ともスカートとスラックスを自由に選べる。開校前の検討委員会で「性別に関係なく誰でも自由に選べる制服」のコンセプトでデザインを決定した。女子はやや細身の女子用スラックスとスカートのどちらでも可。男子もスカートを選ぶこと

東京都港区は昨年4月、体と自認する性が異なるトランスジェンダーなどの性的少数者が、本人の望む性に適した制服などを選択できる「性別表現」の尊重を盛り込んだ改正条例を施行した。(重政紀元)